令和7年度麻生区地域課題対応事業
「あさおふれんず」第42号
令和7年8月1日発行

あさお市民活動レポート

発行元　認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター

あさおふれんず

Asao friends

8
2025

かわさき高齢者とペットの問題研究会

3面

過去に開催の研修・交流会風景

過去の研修会風景。長寿日本一の麻生区、ペットと暮らす高齢者の方には、ペットとご自身のためにぜひ参加してほしい研修会だ。

8月号 市民サークル紹介

詳しい情報は中面・裏面で！

麻生区で活動する市民サークルを紹介しています。気になるサークルには、ぜひお問い合わせを！

岡の上カフェ

2面

季節のイベントを通じて住民が交流する

麻生区岡上町内会が開く「岡の上カフェ」の目的は、単なるカフェではなく、併せて行う「地域のささえあい活動」を補うものであった。

ラフィアサロン・新百合ヶ丘

4面

完成品（色は 28 色から選べる）

材料のラフィアの繊維、染色、編みの技ともども、本物のラフィア編みにこだわった優しい手触りの帽子。これらを作る技を身に着けませんか？

市民紙芝居・あさお

3面

紙芝居の実演風景

たくさんの紙芝居作品と出会い、演じることで、演じ手同士、演じ手とお客さん、お客さん同士という新たな出会いが生まれていく。

ウクレレ・アロハ

2面

お客さんから曲に合わせて手拍子も

麻生市民館で行われた「あさおサークル祭」での発表の様子。ハワイアンの曲では、メンバー２人がステージを下りてフラを踊った。

ボランティア企画員募集

対象講座
目指せ！アクティブシニア講座

麻生市民交流館やまゆりでは、仕事や子育てに一区切りついた人や、定年前に今後の活動を検討したい人が地域社会デビューを果たす手伝いをしている。来年１月10日（土）からは17回目となる「目指せ！アクティブシニア講座」を開講する。

現在、講座プログラムの内容決定・講師の選定、受講者募集チラシ作成・印刷、講座当日の会場準備や運営等を事務局と一緒に行う企画員（ボランティア）を募集している。詳細はチラシやＷＥＢサイトで確認の上、積極的に参加をしてほしい。

＊活動期間：9月から来年2月まで随時
（委員初会合：9月8日（月）予定）
＊募集定員：5名（応募者多数の場合は抽選）
＊応募期限：8月29日（金）
＊お申込み：HPをご確認ください

お問い合わせ
麻生市民交流館やまゆり
☎044-951-6321
https://yamayuri.ne.jp/

地域や世代を問わず集える〝いこいの場〟

岡の上カフェ

力を合わせた七夕飾りの出来栄えに笑顔がいっぱい

老若男女が月1回集まって、小物作りやお茶、おしゃべりで楽しく過ごしている。周辺は田舎の風情が残っており、帰りに散策するもよし。

2004年から始めた麻生区岡上町内会の「ささえあい活動」では、家庭を訪問する傾聴の依頼が多かった。その対策として、2017年から高齢者や子育て世代などが外出し、多世代が集う機会を生む場として「岡の上カフェ」の活動を開始した。活動の内容は、前半は団子、梅干し、お手玉、折り紙、しめ縄、七夕飾り、クリスマスリースなどテーマを決めて作る。地域住民の知識や経験を活用してマジックショー、ボッチャ、楽器の演奏などを楽しむこともある。後半は軽い体操のあと、お茶とお菓子、おしゃべりなどで交流する。気候がいい時は周辺を散歩することもある。自力で会場に来るのが難しい高齢者向けには、運転ボランティアが送迎に協力する。

地域の内外を問わず参加は自由で、事前の届けも不要。楽しい集いなので気楽に訪ねてほしい。

取材・文　区民記者　中島久幸

最後は軽い体操で健康の維持を図る

岡の上（おかうえ）カフェ

代　表：伊藤 道子
設　立：2017年4月
会　員：20名（片平地域包括支援センター職員、岡上町内会、民生委員、ボランティア）
参加費：100円／1回
利用者数：20～30名/1回（乳幼児～80歳代）
活動日：毎月第4土曜日　10時～12時
場　所：岡上公会堂
(岡上小学校に隣接、鶴川駅南口徒歩7分)

百合丘で奏でる癒しの音色

ウクレレ・アロハ

6月8日、「ウクレレ・アロハ」のメンバー9人が、「あさおサークル祭」のステージに立った。「瀬戸の花嫁」「ドレミの歌」からハワイアンの「アロハオエ」まで、フラも交えた歌とウクレレで全9曲を披露すると、会場は和やかな雰囲気に包まれた。

「ウクレレ・アロハ」は、フラ・サークルの「マウナケア」を主宰する佐藤清子先生が、ウクレレがメインのサークルとして2019年に立ち上げた。「百合丘いこいの家」に集う月2回の定例会のほか、「自主練習」が月2回と熱心に活動している。参加のきっかけは「ウクレレを持っていたから」「ハワイアンをやりたい一心」などさまざまだ。

メンバー唯一の男性、田山裕一さんは7月で御年91歳。ウクレレは定年後に始めたそうで、ハワイアン・ソングにも造詣が深い。「楽器として入りやすく、音色に癒されます。指を動かすのでボケ防止にもなります」と田山さん。

往年の名歌手、アンディ・ウィリアムスばりの美声を響かせた田山さん

今年は大会議室が舞台だったが、ふたを開けてみれば100人近いお客さんでほぼ満員、アンコールの声もかかった。来年は麻生市民館大ホールでの演奏も夢ではないかもしれない。

取材・文　区民記者　藤戸浩一

ウクレレを手にポーズ。前列左から2人目が佐藤先生

ウクレレ・アロハ

発起人：佐藤 清子（さとう・きよこ）
連絡先：℡090-9139-4785（佐藤）
設　立：2019年
会　員：11名
入会金：なし
会　費：なし
活動日：第2木曜日、第4火曜日
場　所：百合丘いこいの家

学び合い、演じることを通じ、交流する

市民紙芝居・あさお

「紙芝居勉強会」風景。紙芝居を演じているのが、代表の吉田静香さん

始まりは、2021～23年度の麻生市民館市民自主学級「紙芝居から広がる市民のつながり」実施から。ここでの連続講座を学んだ人、またFacebookを見た人などが集まり、活動が定期的にスタートした。

「紙芝居勉強会」を取材・撮影した日の様子を記そう。

最初に、〝紙芝居の輪〟を広げていく実演や講演など、今後直近の活動について、代表者から話がなされる。

その後、順に手を挙げ、それぞれに携えてきている紙芝居を演じていく。紙芝居は、出席者が大方、図書館などから借りてきているものだ。演じた後、その作者（脚本・絵）について、タイトル名について、そこで語られた言葉について、作品の背景についてなど、出席者みんなで、その文化性について語り合う。

会の目的について、代表の吉田静香さんは「日本の文化としての『紙芝居』を学び合い、研究し、演じることを通じて地域の人たちと交流することを目指しています」と語る。さらに「紙芝居の好きな人同士が作品について語り合い、紙芝居を演じていけるようになると、そこに身近な人から地域、国境を越えた素敵な交流ができると考えています」とも。

こうした定例の「勉強会」ほか、例えば毎年、「あさお子育てフェスタ」とか「ビバ！あさおのこどもたち」などで実演、ほか学校寺子屋体験授業で手づくり紙芝居も行っている。

なお、「勉強会」では、会員と分け隔てなく、紙芝居に興味を持つ「参加者」も招き入れられ同様に活動している。ここにも、閉鎖的ではない〝広げる〟という活動特長がみえる。

取材・文　区民記者　神澤秀夫

しみんかみしばい 市民紙芝居・あさお

代　表：吉田 静香（よしだ・しずか）
連絡先：℡090-7828-6483
Mail shimin.kamishibai@gmail.com
設　立：2021年6月1日
会　員：6名（女性6名、男性0名）
入会金：なし
会　費：なし（紙芝居勉強会に参加した時に参加費 500円）
活動日：月1回 日曜日（不定期）
場　所：麻生市民館会議室

高齢飼い主とペットの幸せのために

かわさき高齢者とペットの問題研究会

かわさき高齢者とペットの問題研究会代表の露木さん（左側）と副代表の中川さん（右側）

かわさき高齢者とペットの問題研究会（以下「会」という）は、ペット飼育が難しくなった高齢者に対し、飼い主とペットの両方が幸せでいられるように助言とサポート活動を行うことを主な目的として、市の「かわさき犬・猫愛護ボランティア」の有志により組織された（会員になるには、同ボランティアであることが必要）。

長寿日本一の麻生区には、ペットを家族の一員として暮らしている家庭も多いと思われる。しかし、高齢者のペット飼育は、最後まで寄り添いたいという願いにもかかわらず、身心の故障などで十分な世話ができなくなり、結果的に放置、多頭飼育崩壊などに陥ってしまうリスクを有している。そんな事態にならないためには早い時期からの準備が必要なことから、会では介護や福祉業務に携わる方や一般の方を対象に、研修・交流会を開催し参加を呼びかけている。また、川崎市動物愛護センターなどとの協働、行政当局への提言も行っている。

ペットは法律上飼い主の所有物であるため、事前に譲渡等の手続きをしておかないと、援助の手は届かない。会ではペットの管理を任せるための書式を用意し利用を勧めている。

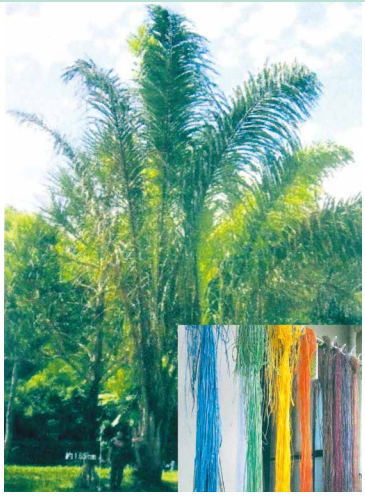
代表の露木さん、副代表の中川さんは「ペットを飼うとき、飼い主の方はペットの福祉を考え、最後まで愛情と責任をもって飼育してほしい」と熱く語っていた。

取材・文　区民記者　仲原照男

かわさき こうれいしゃ 高齢者とペットの もんだいけんきゅうかい 問題研究会

代表者：露木 昌子(つゆき・まさこ)
設　立：2015年4月
会　員：19名(2025年6月30日現在)
入会金：なし
会　費：なし
活動日：毎月第3日曜日
場　所：川崎市動物愛護センター(アニマモール)
H　P：https://Kawasaki-sepw.localinfo.jp/

本物志向のラフィア編みの技を手に入れよう



ラフィアヤシの木（右下：葉を細かく裂いて染めたラフィアの繊維）

完成品（右下：型に合わせてテープを縫い付けている）

材料、技とも本物のラフィア編みの帽子づくりにこだわる宮河悦子先生。完成した作品は形、色合いのほか手触りも優しさにあふれていた。

先生は、麻生区の名前の由来であるカラムシの繊維を取り出すワークショップを、20余年続けていたなかでラフィアに出会った。講座で使うラフィアの繊維は、本場製のマダガスカル産ラフィアヤシの葉を裂いたもの。染めは老舗、千葉のイシイクラフト社。製作の手順は、多色染めされた繊維を数本選んで五つ編みしてテープを作る。次に型に合わせてテープを巻き付けながら繊維で縫い付けていく。トップからサイド、ツバへの形の変化は、縫い方を工夫して行う。同じ色の繊維を使っても、受講者によって全然違うものができるので面白い。講座は、1回目がラフィア編みの説明と繊維の色選び。2回目以降は完成まで製作。作品の完成時間は、繊維を束ねながら編んでテープを作る作業への熱意次第。テープは帽子1個で10メートルほどを要するので、自宅での作業が欠かせない。

不定期であるが、有志を募ってのおしゃべり会を福祉パルの会議室で開く。海外支援活動など稀有な体験談を聞きながら、お茶とおしゃべりを楽しむ。

講座開講の予定は、岡上の季の庭でのオープンガーデン会場、SNS「チーム新百合ケ丘」などや、市民交流館やまゆりでチラシを掲示して知らせる。1回目は予約なしで無料。興味がある人は訪ねてほしい。

取材・文　区民記者　中島久幸

おしゃべり会の様子（写真提供：ラフィアサロン）

黙々と作品づくりに勤しむ

ラフィアサロン・新百合ヶ丘（しんゆりがおか）

代　表：原 信子（はら・のぶこ）
講　師：原 信子、宮河 悦子（みやかわ・えつこ）
連絡先：Tel.090-4362-7598（原）
設　立：2022年4月
会　員：開講の都度募集
会　費：1回目無料、2、3回目各2000円、4回目以降無料
　　材料費3000円
活動日：不定期（2時間半／1回）、原則5月、11月開講
場　所：麻生市民交流館やまゆり

ふれんずの輪を広げよう

区民記者が、あなたの活動を取材します！

活動を紹介して欲しい

イベントを取材して！

取材申込み方法

応募条件

麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤など麻生区に関わる方が活動に参加している。

申込方法

❶団体名 ❷代表者名 ❸連絡先（電話・FAX・メール）
❹活動内容（イベントの場合は開催日時・料金・内容）
をFAXまたはメールでご連絡ください。

FAX 044-951-6467　　MAIL info@asao-ku.net

お申込みいただいた内容については、編集会議で可否を検討したうえ、改めてご連絡させていただきます。

あさお区民記者

「区民による　区民のための情報発信」を目的に活動。原則、第2木曜日に**『Web会議システム（ZOOM）』**で編集会議を行っています。興味のある方や、参加を希望される方の傍聴を歓迎します。左の取材申し込みと同じメールアドレスへご連絡ください。過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。

※選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、営利目的の団体・個人、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。

「あさおふれんず」第42号 発行日：令和7年8月1日　　編集長：中島 久幸　紙面デザイン：井上 由佳子
発行元：認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター　Tel.044-951-6321 Fax.044-951-6467